

関東甲信越地区研修会参加の皆様へ

各位には国立大学病院関東甲信越地区ブロック研修会への出席を頂き誠に有り難うございました。約50名もの参加があり、今後の関東甲信越地区ブロック臨床検査技師の交流、研修会の発展につながるものと確信しました。次を担う方々にはこの研修会を通じて他施設技師との交流、現状を把握して、今後の臨床検査を進展させて頂きたいと存じます。有り難うございました。

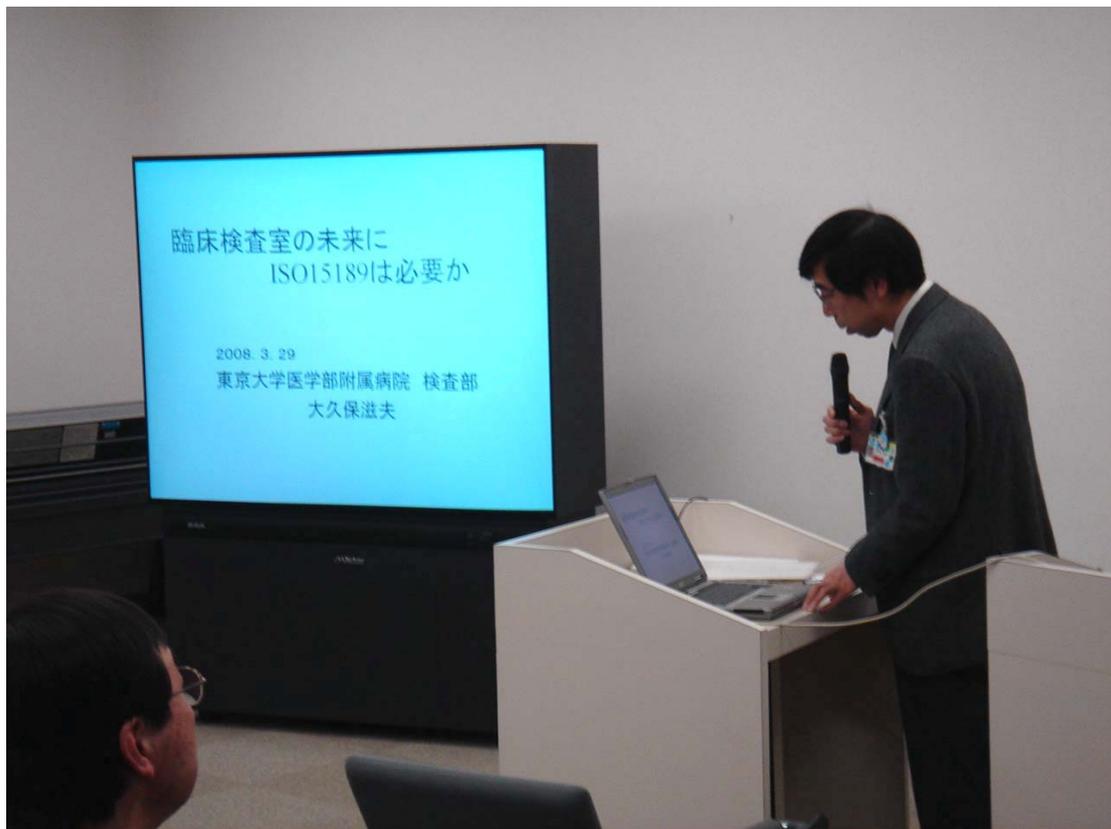
全国国立大学臨床検査技師会 会長 横田浩充

関東甲信越地区ブロック研修会の報告

平成20年3月29日(土)午後2時より、第2回国立大学病院(関東甲信越地区)臨床検査技師会研修が東大病院入院A棟1階レセプションルームで行なわれました。関東甲信越地区9大学から46名が参加されました。研修テーマ「臨床検査の未来」としまして、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 戸塚 実先生から「未来へ向けての技師教育」のご講演を賜りました。戸塚先生は今後の臨床検査の地位向上に必要な技師教育、技師像について語られ、業績、博士号学位の取得の重要性を説かれました。続いて、当検査部の大久保副技師長から、自施設の経験を踏まえ、臨床検査の未来を考えた場合のISO15189取得の重要性が紹介されました。また、臨床検査の未来を目指すべく各施設の取り組みが紹介され、それぞれ、熱いメッセージが発せられました。演者は株式会社エスアールエル 臨床検査事業 営業部門 金村 茂先生、千葉大学医学部附属病院 検査部 澤部 祐司技師長、駿河台日本大学病院 臨床検査部 佐野 和三技師長でした。研修会の終了後には懇親会を行いました。この席で参加者からは「来年の研修会には多くの参加を呼びかけ、関東甲信越地区技師の活発なる交流を計りたい」との声が多く上がりました。



「未来へ向けての技師教育」 東京医科歯科大学 戸塚 実先生



「臨床検査の未来に ISO15189 が必要か」 東大病院 大久保副技師長



研修会の様子